

Title	飯田鼎名誉教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of Prof. Kanae Iida
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1990
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.83, No. 特別号-I (1990. 9) ,p.206- 218
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	飯田鼎教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19900901-0206

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

飯田 鼎名誉教授著作目録

著書・共著・編著・訳書

- イギリス労働運動の生成——黎明期の労働運動と革命的民主主義—— 有斐閣 1958年
- マルクス主義における革命と改良——第一インターナショナルにおける階級、
体制および民族の問題—— 御茶の水書房 1966年
(訳書) シドニー&ビアトリス・ウェップ著, 荒畑寒村監修『労働組合運動の歴史』上巻・下巻
(高橋洗氏と共訳) 日本労働協会 1973年
- イギリス・衰亡と再生 並紀書房 1976年
- 労働運動の展開と労使関係——国際比較研究のために—— 未来社 1977年
(編著) 社会政策の現代的課題——小林巧教授還暦記念論文集—— 御茶の水書房 1983年
- 福沢諭吉——国民国家論の創始者—— 中央公論社(中公新書) 1984年

論文・その他

- ギルドの歴史と労働組合の起源(一)——英国における労働運動前史の一考察—— 『労働問題研究』 1950年2月
- ギルドの歴史と労働組合の起源(二) 『労働問題研究』 1950年8月
(書評) ハロルド・ラスキー著『現代革命の省察』(Harold J. Laski; Reflections on the
Revolution or our Time, 1943)を読む 『三田学会雑誌』 1950年12月
- (書評) ハロルド・ラスキー著『新社会における労働組合』 『労働問題研究』 1951年3・4月
- シドニー・ウェップ夫妻, その生涯と業績——英国社会史の一断面—— 『三田学会雑誌』 1952年1月
- ヒューマニスト・ギャスケルと産業革命期の英国労働者階級
——ギャスケルの『英国の産業人口』一八三三年を読んで—— 『三田学会雑誌』 1954年5月
- イギリス労働党の国有化理論——国有化政策の背後にひそむもの—— 『三田学会雑誌』 1954年12月
(書評) クレメント・アトリー著 自叙伝『起りし事実のままに』 『経済評論』 1954年12月
- イギリス労働党成立の思想史的背景(上)——労働党史研究序説—— 『三田学会雑誌』 1955年1月
(書評) 家永三郎著『数奇なる思想家の生涯』 『三田学会雑誌』 1955年1月
- イタリアにおける社会民主主義とファシスト運動——W. Hilton-young; The Italian left, a
short history of political socialism in Italy, 1949 によせる—— 『三田学会雑誌』 1955年3月
(書評) 田中惣五郎『幸徳秋水——革命家の思想と生涯』,
山極圭司著『木下尚江——先覚者の闘いと悩み』 『三田学会雑誌』 1955年4月
- 一八三〇年代におけるイギリス労働運動——労働党史研究序説(中)—— 『三田学会雑誌』 1955年6月
- ベヴェン主義とイギリス労働党——労働党左派の発展過程とその意義—— 『三田学会雑誌』 1955年8月
- チャーチスト運動の特質とその歴史的意義について 『三田学会雑誌』 1956年1月
(資料) ドイツ・ファシズムにかんする覚え書——オットー・ウィンツァ
「ファシズムと戦争にたいする十二年の闘争」によせる—— 『三田学会雑誌』 1956年6月
- 十八世紀末期のイギリスにおける急進主義運動と労働者階級 『三田学会雑誌』 1956年7月
(書評) アブッシュ著, 道家忠道・成瀬治訳『ドイツ——歴史の反省——』 『三田学会雑誌』 1956年8月
(書評) ジョン・サヴィル編, ドナ・トール女史記念論文集『民主主義と労働運動』 『三田学会雑誌』 1956年11月
- 黎明期のイギリス労働組合運動——団結禁止法と労働者階級—— 『三田学会雑誌』 1956年12月

- (書評) 穂積文雄著『英国産業革命史の一断面』——ラダイツの研究—— 『三田学会雑誌』 1957年2月
- (書評) ウィリヤム・Z・フォスター著『世界労働組合運動史概説』 『三田学会雑誌』 1957年4月
- ナポレオン戦争後の恐慌期における労働運動と急進主義運動
——ウィリアム・コベットの時代—— 『三田学会雑誌』 1957年5月
- 一八三二年の選挙法改正の歴史的意義——チャーチスト運動史序説—— 『三田学会雑誌』 1957年8月
- (書評) 庄司吉之助著『米騒動の研究』 『三田学会雑誌』 1957年12月
- 一八八〇年代のイギリスにおける社会主義の復活と労働組合運動
——イギリス労働党の起源について—— 『慶應義塾経済学年報』 1958年1月
- (書評) A・L・モートン、ジョージ・テート共著『イギリス労働運動史』 『三田学会雑誌』 1958年2月
- 十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その一)
——労働組合運動における日和見主義の発生—— 『三田学会雑誌』 1958年4月
- (書評) 山崎功著『イタリア社会運動史』 『三田学会雑誌』 1958年5月
- (資料) ドイツ三月革命における労働者階級の役割——カール・オーベルマン
『一八四八年の革命におけるドイツ労働者』を読んで—— 『三田学会雑誌』 1958年6月
- (書評) パンカースト著『サン・シモン主義者ミルおよびカーライル——近代思想序説』 『三田学会雑誌』 1958年7月
- (書評) 住谷悦治著『日本経済史』 『三田学会雑誌』 1958年8月
- 十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その二) ——労働者階級と
政治運動、とくに一八六七年の第二次選挙法改正の意義について—— 『三田学会雑誌』 1958年9月
- (書評) ドナ・トーア著『トム・マンとその時代』 『三田学会雑誌』 1958年10月
- (書評) 田中惣五郎著『吉野作造——日本的デモクラシーの使徒——』 『三田学会雑誌』 1958年11月
- (資料) ジョン・フランシス・ブレイの「ユートピアからの航海」について 『三田学会雑誌』 1958年12月
- (書評) フィリップ・P・ポイリア著『労働党の出現』 『三田学会雑誌』 1959年1月
- 十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その三)
——一八七一年の労働組合法をめぐって—— 『三田学会雑誌』 1959年3月
- (書評) フリーダ・ナイト著『トーマス・ウォーカーの奇妙な裁判』 『三田学会雑誌』 1959年3月
- (資料) ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(その一) ——ユルゲン・クチンスキー「第一次
世界大戦の勃発とドイツ社会民主主義—記録と分析」における日和見主義の評価をめぐって—— 『三田学会雑誌』 1959年4月
- (書評) ドナルド・リード著『ピータールー——虐殺とその背景』 『三田学会雑誌』 1959年5月
- (書評) A・シュトルムタール著、神川信彦、神谷不二共訳『ヨーロッパ労働運動の悲劇』 『三田学会雑誌』 1959年6月
- イギリスにおける社会民主主義の形成過程(その一)——ヴィクトリア中期—資本主義の相対的安定
期—における社会民主主義の性格形成について—— 『三田学会雑誌』 1959年7月
- (書評) B・C・ロバーツ著『労働組合同議——一八六八～一九二一』 『三田学会雑誌』 1959年8月
- (書評) 麻生久伝刊行委員会『麻生久伝』 『三田学会雑誌』 1959年9月
- (資料) ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(その二)——社会主義鎮圧法の時期におけるドイ
ツ社会民主党の闘争—帝国委員会の活動—について—— 『三田学会雑誌』 1959年10月
- (書評) カール＝ハインツ・ライディヒカイト著『ドイツ労働運動における
ウィルヘルム・リープクネヒトとアウグスト・ベーベル』 『三田学会雑誌』 1959年11月
- (書評) エリザベス・アイゼンスタイン著『最初の職業的革命家、
フィリップ・ミッシェル・ブォナロッチー——伝記的評論——』 『三田学会雑誌』 1959年11月
- (書評) ブランコ・プリビチュヴィッチ著『職場委員会運動と労働者の管理、

- 一九一〇～一九二二年』 『三田学会雑誌』 1959年12月
- (資料) 一九〇五～一九〇七年の第一次ロシア革命のドイツに及ぼした影響
—ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(三の一)— 『三田学会雑誌』 1960年1月
- (書評) ハイマン・カプリン編著『明治労働運動史の一齣——高野房太郎の生涯と思想——』
『三田学会雑誌』 1960年1月
- (資料) 第一次ロシア革命(一九〇五—一九〇七年)のドイツに及ぼした影響
—ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(三の二)— 『三田学会雑誌』 1960年2月
- (書評) F・ビーリー、ヘンリー・ペリング共著『労働党と政治』 『三田学会雑誌』 1960年3月
- (書評) R・M・フォックス著『ジム・ラーキン』、エムリス・ヒューズ著『ケーア・ハーディ』
『三田学会雑誌』 1960年4月
- イギリスにおける社会民主主義の形成過程(その二)
- 帝国主義の時期におけるイギリス労働運動と労働代表委員会— 『三田学会雑誌』 1960年5月
- (書評) 田中惣五郎著『北一輝——日本のファシストの象徴』 『三田学会雑誌』 1960年5月
- (書評) E・H・P・ブラウン著『イギリス産業関係の発展——
一九〇六年から一九一四年の立場からの研究』 『三田学会雑誌』 1960年6月
- (書評) アーサー・ブリッグス編『チャーチスト研究』、
F・C・メーザー著『チャーチストの時代における公共秩序』 『三田学会雑誌』 1960年7月
- (資料) G・D・H・コール、その人と業績——最近の追憶から—— 『三田学会雑誌』 1960年9月
- (書評) マーベル・タイルコート著『一八五一年以前における
ランカシアおよびヨークシアの機械工学校』 『三田学会雑誌』 1960年9月
- (書評) アーサー・ブリッグス、ジョン・サヴィル共編『労働運動史論』
—G・D・H・コールの想い出のために— 『三田学会雑誌』 1960年10月
- (新刊紹介) 家永三郎著『植木枝盛研究』 『三田学会雑誌』 1960年10月
- 十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(一)——一八四八年以前の
チャーティスト運動とマルクスおよびエンゲルス—— 『三田学会雑誌』 1960年12月
- (資料) 第一次世界大戦の勃発とドイツ社会民主党
—ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(四の一)— 『三田学会雑誌』 1961年1月
- (書評) エリック・ウォルドマン著『スパルタクス団の蜂起』、ルドルフ・コウパー著『革命の失敗』
『三田学会雑誌』 1961年1月
- (書評) S・R・グローバード著『イギリス労働党とロシア革命——一九一七年～一九二四年——』
『三田学会雑誌』 1961年2月
- (資料) 十九世紀末期から二十世紀初頭にかけてのドイツ帝国東部および
中部における農業季節労働者の状態 『三田学会雑誌』 1961年3月
- (書評) W・スターク著、杉山忠平訳『知識社会学——思想史の方法——』 『三田学会雑誌』 1961年3月
- 十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(二)——一八四八年の革命以後における
マルクスおよびエンゲルスとイギリス労働者階級—— 『三田学会雑誌』 1961年4月
- (書評) 岸本英太郎・渡辺春男・小山弘健著『片山潜』、隅谷三喜男『片山潜——近代日本の思想家』
『三田学会雑誌』 1961年4月
- (書評) 吉岡金市著『森近運平——大逆事件の最もいたましい犠牲者の思想と行動』
『三田学会雑誌』 1961年5月
- (資料) 明治社会主義史料にあらわれた外国社会主義運動——「直言」を通じてみた——
『三田学会雑誌』 1961年6月
- (書評) 荒畑寒村著『寒村自伝』 『三田学会雑誌』 1961年6月

- 一八九〇年から一九一四年にかけてのドイツ労働運動における若干の問題
 ——W・バルテルの批判—— 『三田学会雑誌』 1961年7月
 (書評) W・シャイラー著、井上勇訳『第三帝国の興亡——ヒットラーの抬頭——』
 『三田学会雑誌』 1961年7月
 (研究ノート) イギリス産業革命史研究についての覚え書——産業革命史学へのひとつの提言——
 『三田学会雑誌』 1961年8月
 (資料) ワイマール体制下におけるドイツ独占資本とユンカー——B・プフタ「ユンカーとワイマ
 ール共和国——一九二八年から一九三三年にかけての東部援助の性格とその意義」を読んで——
 『三田学会雑誌』 1961年9月
 (書評) シドニー・ポラールド著『シェフィールドにおける労働の歴史』 『三田学会雑誌』 1961年9月
 (資料) 第一次世界大戦中におけるドイツ社会民主党とプロレタリア国際主義
 ——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(四ノ二)—— 『三田学会雑誌』 1961年10月
 (書評) 小川喜一著『イギリス社会政策史論』 『三田学会雑誌』 1961年11月
 (書評) ワルトラウド・ザイデル・ホェップナー著『ウィルヘルム・ヴァイトリング
 ——ドイツ共産主義の最初の理論家および煽動者』 『三田学会雑誌』 1961年11月
 (資料) 十九世紀末におけるドイツ独占資本と保護関税政策——ロルフ・ゾンネマン著「一八七九
 年から一八九二年までのドイツ鉄鋼業の独占化にたいする保護関税の成果」の紹介——
 『三田学会雑誌』 1961年12月
 (書評) エリー・アレヴィ著『トーマス・ホジスキ』 『三田学会雑誌』 1961年12月
 第一インターナショナルとイギリス労働組合運動
 ——十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(その三)—— 『三田学会雑誌』 1962年2月
 (資料) 初期マルクス研究におけるひとつの問題——フェルダー「一八四八年の革命前夜における
 マルクスとエンゲルス」における“真正社会主義”の解釈について—— 『三田学会雑誌』 1962年3月
 (書評) 佐野稔著『産業合理化と労働組合——イギリス労働運動史の一断面——』
 『三田学会雑誌』 1962年5月
 (書評) 入江節次郎『独占資本イギリスへの道——現代への序曲——』 『三田学会雑誌』 1962年6月
 (資料) イギリス帝国主義と社会民主主義——バーナード・ゼンメル「帝国主義と社会改革——一八
 九五年から一九一四年までのイギリス社会帝国主義思想」の批判—— 『三田学会雑誌』 1962年7月
 (書評) D・リード、E・グラスゴウ共著『アイルランド人およびチャーティストとしての
 ファーガス・オコンナー』 『三田学会雑誌』 1962年8月
 (新刊紹介) J・ストレイチャー著、関嘉彦他訳『帝国主義の終末』 『三田学会雑誌』 1962年8月
 (書評) ボーデルゼン著『ヴィクトリア中期帝国主義の研究』 『フェビアン研究』 1962年9月
 (研究ノート) 社会政策研究と社会経済史学——岡田与好著「イギリス初期労働立法の歴史的展開」
 によせて—— 『三田学会雑誌』 1962年10月
 (書評) 都築忠七著『H・M・ハインドマンと英国社会主義』 Chu, Tsuzuki, H. M. Hyndman and
 British Socialism, ed. by Henry Pelling. 1961 『経済評論』 1962年11月
 (新刊紹介) 森喜一著『日本労働者階級状態史』 『三田学会雑誌』 1962年11月
 (新刊紹介) 森喜一著『続日本労働者階級状態史』 『三田学会雑誌』 1962年12月
 (書評) 池田清著『政治家の未来像——ジョセフ・チェムバレンとケア・ハーディ——』
 『三田学会雑誌』 1963年1月
 労働運動史研究のための一試論——大河内教授の労働運動論に寄せる—— 『日本労働協会雑誌』 1963年2月
 (資料) 「初期マルクス」研究のための一資料——杉原四郎、重田見一訳、
 マルクス『経済学ノート』を読んで—— 『三田学会雑誌』 1963年3月

十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(四)——共産主義者同盟の分裂について——	『三田学会雑誌』	1963年4月
(書評) H・モテック, H・ブルンバーク, H・ウツマー, W・ベッカー共著 『ドイツ産業革命史研究』	『三田学会雑誌』	1963年5月
第一インターナショナル形成過程にかんする一考察——後期チャーティストの役割	『三田学会雑誌』	1963年6月
(学界展望) イギリス労働運動史研究会の最近の動向——労働史研究会の活動について——	『三田学会雑誌』	1963年8月
私たちの新聞	『世界』	1963年8月
(新刊紹介) 大河内一男著『労働組合』	『三田学会雑誌』	1963年9月
(書評) ディートリッヒ・アイヒホルツ著『一八四八年の鉄道史における ユニカーとブルジョアジー』	『三田学会雑誌』	1963年10月
(新刊紹介) 山中篤太郎著『イギリス労働運動小史——労働運動の理解のために——』	『三田学会雑誌』	1963年10月
(資料) 一八六四年から一八六六年に至る第一インターナショナルの総務委員会にかんする史料 (その一)	『三田学会雑誌』	1963年11月
(新刊紹介) 小林昇編『経済学史小辞典』	『三田学会雑誌』	1963年11月
(書評) 島崎晴哉著『ドイツ労働運動史——根源と連続性の研究——』	『三田学会雑誌』	1963年12月
(資料) 一八六四年から一八六六年に至る第一インターナショナルの総務委員会にかんする史料 (その二)	『三田学会雑誌』	1964年1月
(新刊紹介) H・ルフェーブル著, 大崎平八郎訳『レーニン——生涯と思想——』	『三田学会雑誌』	1964年2月
(研究ノート) 独占資本形成期における労働組合運動研究をめぐる若干の問題——社会政策学会 第二八回大会報告によせて——	『三田学会雑誌』	1964年3月
(書評) ヘンリー・ベリング著『イギリス労働組合運動史』 正義者同盟成立の歴史的意義(その一)	『三田学会雑誌』	1964年4月
——黎明期におけるドイツ労働運動の国際的性格にかんする考察——	『三田学会雑誌』	1964年5月
(書評) E・J・ホップスバウム著『革命の時代——一七八九年から 一八四八年までのヨーロッパ——』	『三田学会雑誌』	1964年9月
第一インターナショナルと民族問題(一)——マルクス主義とポーランドの解放——	『三田学会雑誌』	1964年10月
(新刊紹介) M・ウェーバー著, 大久保和郎訳『マックス・ウェーバー』I	『三田学会雑誌』	1964年10月
独占資本主義形成期における労働運動展開の諸条件	『社会政策学会年報』	1964年11月
(書評) ゲルハルト・ベッカー著『一八四八年から一八四九年にかけてのケルンにおける カール・マルクスとフリードリッヒ・エンゲルス——ケルン労働者協会の歴史によせて——』	『三田学会雑誌』	1964年11月
(書評) P・H・J・H・ゴスデン著『一八一五年から一八七五年までの イギリスにおける共済組合』	『三田学会雑誌』	1964年12月
(研究ノート) 十九世紀初頭のイングランドにおける労働移動の現象について——アーサー・レッ ドフォードの研究「イングランドにおける労働移動, 一八〇〇年～一八五〇年」を中心として ——	『三田学会雑誌』	1965年1月
初期労働組合組織における国際的比較の問題——企業別組織の発生要因をめぐって 大河内・矢島両教授の理論の批判——	『三田学会雑誌』	1965年2月

- (書評) 日本労働組合総評議会編『総評十年史』 『三田学会雑誌』 1965年3月
(資料) 一八六六年から一八六八年に至る第一インターナショナルの総務委員会にかんする史料
(その一) 『三田学会雑誌』 1965年4月
(書評) ハイマン・カプリン著『アジアの革命家——片山潜の生涯』 『三田学会雑誌』 1965年4月
イギリス職能別組合の生成過程(その一)——産業革命前夜における
労働者階級の組織形態について(毛織物業労働者)—— 『三田学会雑誌』 1965年5月
労働運動の歩み 『労働問題』 1965年5月
(書評) 高橋洸著『日本の労資関係の研究——「企業別組合」の構造と機能を中心として——』
『三田学会雑誌』 1965年6月
第一インターナショナル形成期におけるマルクスとエンゲルス(その一)
——マルクス主義における民族、階級および体制の問題—— 『三田学会雑誌』 1965年9月
一八四八年のドイツ革命における労働者協会の役割について——マルクス、エンゲルスの労働問題
の理解を中心として—— 『慶應義塾経済学年報』 1965年9月
第一インターナショナル形成期におけるマルクスとエンゲルス(その二)
——イギリス労働運動とマルクス主義—— 『三田学会雑誌』 1965年10月
(新刊紹介) ロジア・モーガン著『一八六四年から一八七二年までの
ドイツ社会民主主義者と第一インターナショナル』 『三田学会雑誌』 1965年10月
(新刊紹介) 大山敷太郎著『鉱業労働と親方制度』——「日本労働関係論」鉱業篇——
『三田学会雑誌』 1965年10月
(書評) 前川嘉一著『イギリス労働組合主義の発展——新組合主義を中心にして——』
『三田学会雑誌』 1966年1月
(新刊紹介) 山崎功著『バルミーロ・トリアッティ——その生涯と業績——』 『三田学会雑誌』 1966年1月
マルクス主義とポーランド問題——マルクス「ポーランド問題にかんする手稿」を中心として——
『三田学会雑誌』 1966年2月
(書評) 労働問題文献研究会編『文献研究——日本の労働問題』 『季刊労働法』 1966年3月
(書評) 隅谷三喜男著『労働経済論』 『三田学会雑誌』 1966年5月
独占資本主義段階と社会政策研究——大河内一男教授還暦記念論文集「社会政策学の基本問題」に
よせる—— 『三田学会雑誌』 1966年7月
(新刊紹介) 田中敏弘著『マンデヴィルの社会・経済思想
——イギリス一八世紀初期社会・経済思想——』 『三田学会雑誌』 1966年7月
社会政策学研究と労働経済論——隅谷三喜男、氏原正治郎両教授の批判—— 『三田学会雑誌』 1966年8月
(新刊紹介) マリアンネ・ウェーバー著、大久保和郎訳『マックス・ウェーバーII』
『三田学会雑誌』 1966年8月
(新刊紹介) 西岡孝男著『日本の労使関係と賃金』 『三田学会雑誌』 1966年8月
(書評) 戸塚秀夫著『イギリス工場法成立史論——社会政策論の歴史的再構成』
『三田学会雑誌』 1966年9月
(書評) 良知力著『ドイツ社会思想史研究』 『三田学会雑誌』 1966年12月
(研究ノート) 第一インターナショナル研究にかんする最近の動向 『三田学会雑誌』 1966年10月
(新刊紹介) 井上幸治・入交好脩編『経済史学入門』 『三田学会雑誌』 1966年12月
(書評) 大前朔郎、池田信共著『日本労働運動史論——
大正一〇年の川崎・三菱神戸両造船所争議の研究』 『三田学会雑誌』 1967年2月
(新刊紹介) 藤本武著『各国の労働安全対策』 『三田学会雑誌』 1967年2月
職能別組合と一般労働組合——十九世紀前半イギリスにおける労働組合構造に関する一試論——

	『慶應義塾経済学年報』	1967年3月
(新刊紹介) 大河内一男, 松尾洋著『日本労働組合物語』	『三田学会雑誌』	1967年3月
(書評) 大河内一男先生還暦記念論文集第二集『労働経済と労働運動』	『三田学会雑誌』	1967年3月
(新刊紹介) 氏原正治郎著『日本労働問題研究』	『三田学会雑誌』	1967年4月
(新刊紹介) テ・イ・オイゼルマン著, 森宏一訳『マルクス主義哲学の形成』	『三田学会雑誌』	1967年5月
(書評) 高島善哉著『現代日本の考察——民族・風土・階級——』	『三田学会雑誌』	1967年4月
(書評) 隅谷三喜男, 小林謙一, 兵藤剣著『日本資本主義と労働問題』	『三田学会雑誌』	1967年5月
(新刊紹介) 服部英太郎著『国家独占資本主義社会政策論』——服部英太郎著作集第五卷——	『三田学会雑誌』	1967年5月
(書評) 矢島悦太郎著『社会政策社会理論研究』	『三田学会雑誌』	1967年7月
(新刊紹介) 石渡貞雄著『現代資本論 I ——方法論的考察——』	『三田学会雑誌』	1967年7月
鉄工組合と黎明期の日本労働運動——日本のクラフト・ユニオンの興亡——	『三田学会雑誌』	1967年8月
(新刊紹介) 服部英太郎著作集VI『社会政策総論』	『三田学会雑誌』	1967年8月
「資本論」とヨーロッパ労働運動	『三田学会雑誌』	1967年9月
(研究ノート) 戦後炭鉱労働運動史の一齣 ——三池炭鉱労働組合編「みいけ二〇年」を読んで——	『三田学会雑誌』	1967年10月
(新刊紹介) 法政大学大原社会問題研究所『太平洋戦争下の労働運動』 ——日本労働年鑑特集版——	『三田学会雑誌』	1967年10月
(新刊紹介) 法政大学大原社会問題研究所『太平洋戦争下の労働者状態』 ——日本労働年鑑特集版——	『三田学会雑誌』	1967年10月
(書評) 徳永重良著『イギリス賃労働史の研究——帝国主義段階における労働問題の展開——』	『三田学会雑誌』	1968年2月
(資料) 戦後の教育労働運動についての一素描 ——日本教職員組合編「日教組二〇年史」の批判的考察を通じて——	『三田学会雑誌』	1968年3月
(書評) 経済学史学会編『「資本論」の成立』	『三田学会雑誌』	1968年4月
(書評) 田中真晴著『ロシア経済思想史の研究——ブレハーノフとロシア資本主義論史——』	『三田学会雑誌』	1968年5月
労働運動論研究にかんする一試論——比較労働運動論序説——	『三田学会雑誌』	1968年6月
(書評) 大島清著, 大内兵衛・森戸辰男・久留間鮫造監修『高野岩三郎伝』	『三田学会雑誌』	1968年7月
戦後日本労働組合運動史における問題点——組織問題に関連して——	『三田学会雑誌』	1968年8月
(書評) E・J・ホップスボーム著, 安川悦子・水田洋訳『市民革命と産業革命 ——二重革命の時代——』	『三田学会雑誌』	1968年8月
(書評) 都築忠七著『エリーナー・マルクスの生涯(一八五五～一八九八年) ——ひとりの社会主義者の悲劇——』	『三田学会雑誌』	1968年9月
独占形成期における労資関係と労働組合運動(その一)——イギリス鉄鋼業を中心として——	『三田学会雑誌』	1968年10月
「総評」運動史における国鉄労働組合——「国鉄二〇年史」によせる——	『三田学会雑誌』	1968年11月
独占形成期における労資関係と労働組合運動(その二)——イギリス綿工業——	『三田学会雑誌』	1968年12月
(書評) G・ウッドコック著, 白井厚訳『アナーキズム』	『三田学会雑誌』	1969年1月
(書評) パウル・フレリヒ著, 伊藤成彦訳『ローザ・ルクセンブルグ——その思想と生涯』	『三田学会雑誌』	1969年2月
(学界展望) イギリス労働運動史研究の動向		

- ホップスボウム「イギリス賃労働史研究」によせる—— 『三田学会雑誌』 1969年3月
 (研究ノート)「スミスとリスト」の問題と「マルクスとヴェーバー」の問題——住谷一彦氏の
 『スミスとリスト』から『マルクスとヴェーバー』へ』によせて—— 『三田学会雑誌』 1969年4月
 (書評)羽仁五郎著『都市の論理——歴史条件=現代の闘争』 『三田学会雑誌』 1969年5月
 独占資本主義段階における社会政策と労働力政策——1920年「労働組合法案」をめぐる——
 『三田学会雑誌』 1969年6月
 国家独占資本主義形成期における社会政策と労働力政策——「労働者災害扶助法案」
 および「退職手当金積立法案」をめぐる—— 『三田学会雑誌』 1969年7月
 一九六〇年以後の労働運動と労働者の意識状況 『季刊労働法』 1969年9月
 (書評)R・チャーリナー, B・リプリー著
 『炭坑夫組合——チャーティストの時代におけるある労働組合』 『三田学会雑誌』 1969年9月
 1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係——1868年の「労働組合総評議会」(Trades
 Union Congress)の成立を中心として〔1〕——労働組合運動内部の矛盾——
 『三田学会雑誌』 1969年12月
 1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係——労働組合総評議会の成立について〔2〕
 ——1867年の第2次選挙法改正をめぐる—— 『三田学会雑誌』 1970年1月
 イギリス労働運動とマルクス主義——ヨーロッパ労働運動の伝統形成についての一試論
 『労働運動史研究』 1970年1月
 1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係——1868年の労働組合総評議会(Trades Union
 Congress)の成立を中心として〔3〕——「合同」主義('Amalgamated' principle)の意義に
 ついて 『三田学会雑誌』 1970年3月
 わが国における労使関係の形成過程——国際比較の視野からの一試論 『慶應義塾経済学年報』 1970年3月
 社会政策論の「再構成」の問題——再び『独占資本主義段階における社会政策と労働力政策』に関
 連して,大河内一男,服部英太郎両氏の『戦時社会政策論』の再検討と批判——
 『三田学会雑誌』 1970年4月
 (書評)ダンカン・バイゼン著『手織工——産業革命期におけるイングランド綿工業の一研究——』
 『三田学会雑誌』 1970年4月
 (書評)土井正興著『スパルタクス反乱論序説』 『三田学会雑誌』 1970年5月
 1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係——1868年の「労働組合総評議会」(Trades
 Union Congress)の成立を中心として〔4〕——炭鉱労働組合,綿業労働組合の動向——
 『三田学会雑誌』 1970年6月
 (書評)『サミュエル・ゴンバース自伝——70年の生涯と労働運動——』 『三田学会雑誌』 1970年7月
 1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係——1868年の「労働組合総評議会」(Trades Union
 Congress)の成立を中心として〔5〕——TUCの成立—— 『三田学会雑誌』 1970年8月
 (書評)山崎功著『イタリア労働運動史』 『三田学会雑誌』 1970年8月
 (資料)イギリス労働組合の現状(1)——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on
 Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairmann: The Rt. Hon. Lord
 Donovan)の紹介と分析を中心として—— 『三田学会雑誌』 1970年10月
 戦後日本労働運動史の研究方法について
 ——戦後労働組合運動の戦前との連続性の問題に関連して—— 『三田学会雑誌』 1970年11月
 (学界展望)最近の「マックス・ヴェーバー研究」を読む(内田芳明「ヴェーバー社会学の基礎
 研究」,住谷一彦「リストとヴェーバー」,林道義「ヴェーバー社会学の方法と構想」,安藤英
 治,内田芳明,住谷一彦「マックス・ヴェーバーの思想像」) 『三田学会雑誌』 1970年11月

- (資料) イギリス労働組合の現状(2)——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairmann: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として—— 『三田学会雑誌』 1971年1月
- (書評) 『総同盟五十年史』第三卷(総同盟五十年史刊行委員会), 『新産別の二十年史』I, II (新産別二十年史編纂委員会) 『三田学会雑誌』 1971年1月
- 独占資本形成期における労働運動と労使関係——イギリス労働組合総評議会と日本労働総同盟との比較を中心として—— 『慶應義塾経済学年報』 1971年3月
- 独占資本主義段階における労働組合運動と労使関係, 社会主義運動と労働者政党——1890~1914年の時期のイギリス(その1)—— 『三田学会雑誌』 1971年4月
- (資料) イギリス労働組合の現状(3)——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairmann: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として—— 『三田学会雑誌』 1971年5月
- (書評) ジョン・ラヴェル著『1870年から1914年に至るまでの波止場労働者とドック労働者』, ロイ・グリーンゴリー著『1906年から1914年までの炭坑夫とイギリスの政治』 『三田学会雑誌』 1971年5月
- パリ・コミューンとその現代における歴史的意義——パリ・コミューン100年記念に想う—— 『三田学会雑誌』 1971年6月
- (資料) 明治初期における労働者階級の状態にかんする資料——「明治前期の都市下層社会」および「職工および鉱夫調査」について—— 『三田学会雑誌』 1971年7月
- (書評) 竹前栄治著『アメリカ対日労働政策の研究』, 大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第22集——戦後特集——, 斎藤真・永井陽之助・山本満編『戦後資料・日米関係』 『三田学会雑誌』 1971年7月
- (書評) 藤本武著『現代の労働問題』 『日本労働協会雑誌』 1971年7月
- 独占資本主義段階における労働問題と社会政策 ——社会政策論の再構成にかんして, 徳永氏の社会政策論の批判—— 『三田学会雑誌』 1971年9月
- 産業民主主義と労働者管理の思想 『三田学会雑誌』 1971年10月
- (学界展望) イギリス労働運動史上のロバート・オーエン——生誕二〇〇年を記念して—— 『経済学史学会年報』 1971年11月
- (書評) 大河内一男解説『職事情』(生活古典叢書4), 籠山京解説『女工と結核』(生活古典叢書5) 『三田学会雑誌』 1971年12月
- (書評) 関谷耕一解説『月島調査』(生活古典叢書6), 中鉢正美解説『家計調査と生活研究』(生活古典叢書7), 氏原正治郎解説『余暇生活の研究』(生活古典叢書8) 『三田学会雑誌』 1972年1月
- (研究ノート) ヨーロッパ労働運動史の研究状況——オーストリア国リンツにおける国際労働運動歴史家会議第7回大会に出席して—— 『三田学会雑誌』 1972年2月
- (書評) 安藤良雄・山本弘文解説『興業意見他前田正名関係資料』(生活古典叢書1) 『三田学会雑誌』 1972年2月
- 独占資本主義段階における労働問題と社会政策(その2) ——最低賃金制と社会保険との関係を中心として(I)—— 『三田学会雑誌』 1972年4月
- (書評) 二瓶恭光著『草の根の団結——三池における人間の記録』 『三田学会雑誌』 1972年4月
- 社会政策研究の現代的課題——社会政策学会年報「社会政策と労働経済学」に関連して, 社会政策論の再構成を想う—— 『三田学会雑誌』 1972年5月
- (書評) 隅谷三喜男編著『日本職業訓練発展史——先進技術土着化の過程——』(上下) 『三田学会雑誌』 1972年6月
- (資料) イギリス労働組合の現状(4)——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on

- Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968. Chairmann: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として—— 『三田学会雑誌』 1972年7月
- (書評) 兵藤剣著『日本における労資関係の展開』 『土地制度史学』 1972年7月
- 黎明期の経済学研究と福沢諭吉(その一)——日本経済学史研究序説—— 『三田学会雑誌』 1972年9月
- (学界展望) ロバート・オーエン研究にかんする最近の動向——'Robert Owen. Prophet of the Poor, Essays in Honour of the Two Hundredth Anniversary of his Birth,' edited by Sidney Pollard and John Salt, with an Introduction by Sidney Pollard, 1971, Londonを中心として—— 『三田学会雑誌』 1972年9月
- (書評) E・バウムガルテン著, 生松敬三訳『マックス・ヴェーバー, 人と業績』, パウル・ホーニヒスハイム著, 大林信治訳『マックス・ヴェーバーの思い出』, 安藤英治著『ヴェーバー紀行』 『三田学会雑誌』 1972年10月
- 黎明期の経済学研究と福沢諭吉(その二)——日本経済学史研究序説—— 『三田学会雑誌』 1972年11月
- 1905年のロシア革命と日本の社会主義——ヨーロッパ労働運動の日本の社会主義への影響—— 『三田学会雑誌』 1973年1月
- 独占資本主義段階における労働組合運動と労使関係, 社会主義運動と労働者政党(その二) 『三田学会雑誌』 1973年4月
- (研究ノート) 大逆事件における「近代」と「前近代」——浜畑栄造「大石誠之助小伝」によせて—— 『三田学会雑誌』 1973年5月
- (研究ノート) 独占資本主義段階における労働運動の諸問題——「労働運動史論集」(Essays in Labour History 1886-1923, edited by Asa Briggs and John Saville 1971, London) を読んで—— 『三田学会雑誌』 1973年6月
- 日本労働運動の転換——春闘方式の歴史的意義書その再検討—— 『三田学会雑誌』 1973年7月
- (書評) 横山源之助全集第1巻『日本の下層社会』, ハイマン・カプリン著, 辻野功, 高井寿美子, 鈴木則子訳『アジアの革命家——片山潜』 『三田学会雑誌』 1973年8月
- ドイツ新歴史学派の導入と日本資本主義——明治前期における労働問題認識と新歴史学派経済学—— 『三田学会雑誌』 1973年9月
- (書評) フリッツ・フィッシャー著, 村瀬興雄監訳『世界強国への道 I ——ドイツの挑戦, 1914-1918年——』 『三田学会雑誌』 1973年10月
- (書評) K・E・ボルン著, 鎌田武治訳『ビスマルク後の国家と社会政策』, 熊谷一男著『ドイツ帝 国主義論』, 中村貞二著『マックス・ヴェーバー研究』 『三田学会雑誌』 1973年11月
- 明治の社会主義(1)——明治初期における社会主義思想の影響とくに東洋社会党をめぐって—— 『三田学会雑誌』 1973年12月
- (研究ノート) 独占資本主義段階における労働運動の諸問題(続)——「労働運動史論集」(Essays in Labour History 1886-1923, edited by Asa Briggs and John Saville, 1971, London) を読んで—— 『三田学会雑誌』 1974年1月
- 明治の社会主義(2)——明治初期における社会主義思想の影響—— 『三田学会雑誌』 1974年2月
- (書評) 古賀秀男著『チャーティスト運動の研究』 『三田学会雑誌』 1975年11月
- (書評) 高島善哉著『マルクスとヴェーバー, 人間, 社会および認識の方法』 『三田学会雑誌』 1976年1月
- 明治10年代の日本における経済学研究の一断面
——住谷悦治著『ラーネッド博士伝一人と思想』をを読んで—— 『三田学会雑誌』 1976年2, 3月
- イギリス国民保険制度の形成過程(その1)——社会事業と社会政策—— 『三田学会雑誌』 1976年4月
- (書評) 内藤則邦著『イギリスの労働者階級』, 間宏著『イギリスの社会と労使関係』 『三田学会雑誌』 1976年4月

イギリス国民保険制度の形成過程（その2）——19世紀末における社会思想と労働運動——	『三田学会雑誌』	1976年6月
（資料）初期マルクスの周辺——人類と階級の間（1）——都築忠七編『オーエンとチャーティズム——イギリス初期社会主義』（平凡社）1975年を読む——	『三田学会雑誌』	1976年6月
（書評）ウィリアム・ヘンリー・ベヴァリッジ著、伊部英男訳『強制と説得』（William Henry Beveridge, Power and Influence, 1953）	『日本労働協会雑誌』	1976年7月
「国富論」における社会科学的認識の意義について	『三田学会雑誌』	1976年8月
（書評）古賀秀男著『チャーティスト運動の研究』	『歴史学研究』	1976年10月
明治の社会主義（3）	『三田学会雑誌』	1977年2月
第一次大戦中のイギリスにおける労働力政策と社会政策——いわゆる「稀薄化」政策について——	『三田学会雑誌』	1977年6月
（書評）B・L・ハッチンズ、A・ハリソン著、大前朔朗、石畑良太郎、高島道枝、安保則夫共訳『イギリス工場法の歴史』（B.L. Hutchins and A. Harrison; A History of Factory Legislation, 1911）	『日本労働協会雑誌』	1977年6月
イギリス国民保険制度の形成過程（その3）		
——1880年代における社会改良のイデオロギーと社会政策——	『三田学会雑誌』	1977年8月
初期労働運動における共済組合とストライキ団体——労働組合期成会の意義と役割——	『三田学会雑誌』	1977年8月
（書評）大原慧著『幸徳秋水の思想と大逆事件』	『三田学会雑誌』	1977年8月
明治30年代における労働運動と知識人（上）	『三田学会雑誌』	1977年10月
（資料）英国商務省「産業民主主義調査委員会報告書」——いわゆる「パロック報告」について（I）——	『三田学会雑誌』	1977年10月
友愛会の成立の歴史的意義——その共済組合とストライキ団体の矛盾——	『三田学会雑誌』	1977年12月
第一次世界大戦中における労働者階級と労働者意識（その1）	『三田学会雑誌』	1978年2月
（資料）社会政策学会史料集成編纂委員会監修「工場法と労働問題」（社会政策学会史料集成第一巻）	『三田学会雑誌』	1978年2月
「友愛会総同盟」運動における民主主義と社会主義——「友愛会」創立8周年大会を中心として——	『三田学会雑誌』	1978年6月
（書評）緒方富雄著『緒方洪庵伝』	『三田学会雑誌』	1978年6月
（資料）社会政策学会史料集成編纂委員会監修『関税問題と社会政策』（「社会政策学会史料集成」第2巻復刻版）	『三田学会雑誌』	1978年8月
一九世紀末労働問題と国民国家——マックス・ヴェーバーの労働問題把握をめぐって——	『日本労働協会雑誌』	1978年8月
（書評）中村丈夫編『コンドラチェフ——景気波動論』	『三田学会雑誌』	1978年8月
『西洋事情』と福沢諭吉の政治経済思想——チェンバーズの経済書と福沢諭吉の思想形成——	『三田学会雑誌』	1978年10月
（資料）日本政策学会の成立と崩壊にかんする覚え書——社会政策学会史料集成編纂委員会監修「社会政策学会史料」（社会政策学会史料集成別巻I）によせて——	『三田学会雑誌』	1978年12月
（書評）鈴木鴻一郎著『一途の人——東大の経済学者たち』、水田洋著『ある精神の軌跡』	『三田学会雑誌』	1978年12月
戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割（その一）——金井延の思想について——	『三田学会雑誌』	1979年2月
（書評）池田信著『日本社会政策史論』	『三田学会雑誌』	1979年2月

戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割（その二）

——桑田熊蔵の社会政策論について——	『三田学会雑誌』	1979年 4月
（書評）V・S・ナイポール著、工藤昭雄訳『インド——傷ついた文明』	『三田学会雑誌』	1979年 4月
（学界展望）アジア地域における労使関係の現状——労使関係研究協会 および 日本労働協会主催、 1979年「アジア地域労使関係会議」（第8回）に出席して——	『三田学会雑誌』	1979年 6月
（書評）安藤英治著『マックス・ウェーバー』	『三田学会雑誌』	1979年 6月
第一次大戦後における労資関係の形成と労働運動の展開		
——ストライキ団体から労働組合への模索——	『三田学会雑誌』	1979年 8月
（書評）本郷隆盛・前坊洋・稲田雅洋著『近代日本の思想』（1）		
——佐久間象山・福沢諭吉・植木枝盛——	『三田学会雑誌』	1979年 8月
1920年代における労働組合組織の変遷——横断組合から縦断組合へ——	『三田学会雑誌』	1979年10月
（書評）良知力著『向う岸からの社会史——一つの四八年革命史論』	『三田学会雑誌』	1979年10月
第一次大戦後から昭和恐慌期にかけての労働政策の変遷と労働運動（その一）	『三田学会雑誌』	1979年12月
（書評）立花雄一著『評伝 横山源之助——底辺社会・文学・労働運動』	『三田学会雑誌』	1979年12月
（資料）日本社会政策学会と移民問題		
——社会政策学会史料集成第3巻『移民問題』を中心として——	『三田学会雑誌』	1980年 4月
（書評）R・ローズ著、犬童一男訳『現代イギリスの政治』	『三田学会雑誌』	1980年 4月
戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割（その三）——高野岩三郎と家計調査研究——		
	『三田学会雑誌』	1980年 6月
（書評）小田実著『歴史の転換のなかで——21世紀へ——』	『三田学会雑誌』	1980年 8月
（書評）杉原四郎著『J・S・ミルと現代』	『三田学会雑誌』	1980年 8月
榎田民蔵と史的唯物論——日本におけるマルクス経済学研究（一）——	『三田学会雑誌』	1980年12月
（書評）富岡次郎著『イギリス社会主義運動と知識人』	『日本労働協会雑誌』	1981年 3月
野呂栄太郎と『日本資本主義発達史』研究——日本におけるマルクス経済学研究（二）——		
	『三田学会雑誌』	1981年10月
矢内原忠雄と日本帝国主義研究	『三田学会雑誌』	1982年 4月
福沢諭吉における民権とナショナリズムの形成——『西洋事情』と『学問のすゝめ』を中心に——		
	『三田学会雑誌』	1982年 6月
幕末知識人の西欧認識——佐久間象山と福沢諭吉を中心として（1）	『三田学会雑誌』	1984年 4月
（書評）『交詢社百年史』	『三田学会雑誌』	1984年 8月
第一次世界大戦後の恐慌期における社会政策——社会保険から保障へ——	『三田学会雑誌』	1984年10月
『ロンドン・タイムズ』紙記者の眼に映じた文久遣欧使節		
——福沢諭吉と文久遣欧使節研究の一史料——	『福沢諭吉年鑑』	1984年10月
ソヴェート・東欧紀行（一）	『書齋の窓』	1984年10月～
日本社会政策学会と経済学研究（『日本の経済学——日本人の経済的思惟の軌跡——』所収）		
	経済学史学会編	1984年11月
変貌する日本の経済社会と労働問題（その一）——医療保障制度と年金問題	『三田学会雑誌』	1985年 2月
変貌する日本の経済社会と労働問題（その二）——労働時間の問題——	『三田学会雑誌』	1985年 6月
「脱亜論」以後福沢諭吉の清国および朝鮮観——福沢諭吉におけるアジア認識の変遷——		
	『三田学会雑誌』	1985年12月
福沢諭吉と国会開設運動	『三田学会雑誌』	1986年 2月
福沢諭吉と条約改正運動（その一）——福沢諭吉と馬場辰猪——	『三田学会雑誌』	1986年10月
技術革新と社会政策——日本労働総同盟の調査を中心として——	『三田学会雑誌』	1986年12月

福沢諭吉と条約改正運動（その二）——福沢諭吉と同時代人——	『三田学会雑誌』	1987年4月
河上肇の初期経済思想——『日本尊農論』を中心として——	『三田学会雑誌』	1987年10月
河上肇の思想遍歴——『社会主義評論』と「無我苑」の頃：「社会主義者」と「志士仁人」の間——	『三田学会雑誌』	1988年7月
明治末期における経済学研究と保護主義——河上肇の農業保護論と国民国家論を中心に——	『三田学会雑誌』	1989年4月
福地桜痴と福沢諭吉——『懐往事談』と『福翁自伝』をめぐって——	『三田学会雑誌』	1990年1月